

服飾学科・インダストリアルパターンコース

1. 課程修了時の能力水準

ディプロマポリシーで定められているコースの専門職業人の人材育成を目標としている。

コースの課程修了時に達成されることが期待される能力の水準は「学生の学習成果の評価の方針（アセスメントポリシー）」の表に定められている水準である。

この能力水準の測定は、中央職業能力開発協会が作成したアパレル分野の職業能力評価基準中の【アパレル企画】の「製品イメージの具現化（パターンメイキング）」「生産に向けたパターン作成」「生産に向けたパターン修正」【アパレル製造】の「縫製作業」「最終仕上げ」「製品検査」の各能力ユニットのレベル1の能力基準による。

2. 各年次の能力水準

多くの卒業生に関わっている企業や卒業生の意見を基に各学年における到達目標を定めている。

GPA 制度の評価方法は、科目の成績を5段階で評価したものに、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0、のグレードポイント（GP）を付与し、奨学金の選抜や卒業時の代表の選考等に活用している。

2年次：専門コースの基礎知識における学力到達目標

- ・人体工学の基礎的知識から、パターンと縫製を理解
- ・体型を把握し、服の見方を理解
- ・工業用パターンと縫製機器の理解
- ・素材の扱い方とパターンの関連性を理解

：企業の実務認識をもつ

- ・株式会社キイヤ工場見学に参加（全員）
- ・原絹織物株式会社 現地奄美大島泥染めに参加（希望者）

：学部評価としての検定

- ・パターンメイキング検定3級（全員）
- ・色彩能力検定3級（希望者）
- ・ファッション販売能力検定3級（希望者）

：評価基準（インダストリアルパターンⅠ・Ⅱ）

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	… 25%
各自のデータ及び作品	… 25%
最終のデータ及び作品	… 50%

：評価者

（学内）コース2年担当者2名の合同審議で評価

（学外）なし

3年次：専門コースの応用知識における学力到達目標

- ・縫製仕様書などパタンナーにとって必要な知識と素材の扱い方を理解する能力
- ・理論と合わせ立体で効率の良いシルエットを人体ボディで表現できる能力

・3次元計測器による数値でCADパターンメイキングが出来る能力

: 企業の実務認識をもつ

・産学連携：銀座マギー、共和レザー、アトレ目黒と連携し、学生が製作を行うことで実務経験を理解する

: 学部評価としての検定

- ・パターンメイキング検定2級（全員）
- ・色彩能力検定2級（希望者）
- ・ファッションビジネス検定3級（希望者）

: 評価基準（インダストリアルパターンⅢ・Ⅳ）

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	… 30%
作品（素材選び・パターン力・縫製力・完成度）	… 30%
プレゼン能力	… 40%

: 評価者

（学内）コース3年担当者が評価

（学外）グループ制作において企業ブランド研究をする、参加企業による学外審査会を行い、縫製力や企画力を評価する

4年次：専門コースの卒業年次における学力到達目標

- ・パターン作成のための衣服設計を理解し、パタンナーに必要な縫製仕様書を分析する能力
- ・3次元計測における体形解析ができ、体形にあったパターンを作成する能力
- ・アパレル設計の流れを理解し、商品化する販路を理解できる能力
- ・3次元アパレルCADによる個別ボディから原型補正が出来る能力

: 評価基準（インダストリアルパターン卒業制作Ⅰ・Ⅱ）

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	… 30%
作品（素材選び・パターン力・縫製力・完成度）	… 50%
プレゼン能力	… 20%

: 評価者

（学内）コース4年担当者が評価

（学外）協力企業による審査会

企画力、演出力、パターン設計能力を評価。